

学習機会保障される社会へ

十人十色

18

子どもたちの今

『通信制高校』と聞くと、自宅で学習して高校卒業資格を取る学校と思われる方もいらっしゃるのではないかでしょうか。実は

学習方法や学校生活のあり方は、学校によって様々です。

通学、あるいはオンライン学習と登校の組み合わせなどを選択できる場合が多く、部活動や生徒会が盛んな学校もあります。もちろん進学を目指すことも可能です。

全日制の多くは学年制のため、1年生で必須の単位が1科目でもこれないと留年となります。しかし、通信制は単位制が多く、取得できなかつた科目があつても次年度以降にカバーできるのも特長です。

中学の時に不登校だったA君は、集団や字を書くことが苦手で、通信制高校に進学しました。約10人の小集団でのオンライン授業が合っていて、起立性



通信制高校

調節障害で朝起きられなかつたのに、自分で起きて登校するようになります。野球部に入つて全国大会に出場し、卒業後は救急救命士を目指して専門学校に進みました。

Bさんは中学の部活動で後輩

への指導がうまくいかなかつたことをきっかけに不登校になります。選択した時間に登校するフレックス制の通信制高校を進学先に選びました。

何を学びたいのかを子どもが主体的に見いだし、生活力を育む場を考える時、通信制高校は選択肢の一つです。

何らかのつまずきがあつたとしても、高校生活を通して自身を客観的に知り、考える力や感情調整など自立に必要な力を身につけてほしい。そんな思いから、アツトスクールは心理や知能の検査を活用しながら、通信制高校の生徒を支える自立活動や自己発見プログラムにも力を入れています。誰もが学習の機会を保障される社会を目指して

（発達支援塾アツトスクール代表 鈴木正樹）

サポートを受け、通信制高校で学ぶ生徒たち（草津市）――画像の一部を加工しています